

# 第1回「奈良県次世代航空モビリティ活用推進検討会議」

## 結果概要について

奈良県では、県内における次世代航空モビリティ（いわゆる「空飛ぶクルマ」）の社会実装を見据え、関係企業・団体・行政など多様なステークホルダーの皆様と将来的な事業化に向けた検討を行うため、令和7年7月8日に「奈良県次世代航空モビリティ活用推進検討会議（以下、「検討会議」という。）」を設置しました。

同日に第1回検討会議を開催し、奈良県の特長やこれまでの取組状況等について共有するとともに、参画いただいた皆様から今後の展開に向けたご意見を頂きました。その概要は以下のとおりです。

### 記

1. 開催日：令和7年7月8日（火）

2. 出席者：別紙「座席表」のとおり

3. 結果概要

#### 【1. 開会・挨拶】

○奈良県県土マネジメント部長より、奈良県の地理的・交通的課題と次世代航空モビリティへの期待について挨拶

#### 【2. 構成員紹介】

○構成員及び出席者について、別紙「名簿」「座席表」により紹介

#### 【3. 設置趣旨】（資料1）

○「奈良県次世代航空モビリティ活用推進検討会議設置要綱（案）」について、全会一致で承認

#### 【4. 奈良県の取組状況等】

○「次世代航空モビリティ（空飛ぶクルマ）と奈良県（資料2）」

【説明：奈良県 リニア・地域交通課】

・次世代航空モビリティの概要、県の地理的・交通的特性、次世代航空モビリティのユースケース及び導入に向けた検討の方向性について説明

○「ドローンを活用した物流実証実験（資料3）」【説明：奈良県 産業創造課】

・物流ドローンに関する令和6年度の取り組み及び令和7年度の予定について説明

○「奈良の観光（資料4）」【説明：奈良県 観光力創造課】

・本県観光に係る特長や課題、現在の取組状況について説明

○「関西における次世代空モビリティビジネスに関するポテンシャル調査事業」（資料5）

【説明：近畿経済産業局 製造産業課】

- ・令和6年度に実施した関西における次世代航空モビリティビジネスに関するポテンシャル調査について、取りまとめ結果を説明

## 【5. 意見交換】

### ○大阪府の取組紹介

- ・大阪・関西万博を1つの契機として、また万博後どのように社会実装に繋げていくのかを課題とし、取組を推進している旨を説明
- ・将来的には関西広域での運航ネットワーク構築を目指す

### ○事業者意見

#### 【運航事業者】

- ・空飛ぶクルマを活用した観光コンテンツを考える際は、複数の観光資源地を周遊可能にする整備（二次交通）が必要
- ・空飛ぶクルマは静音性に優れており、都市部でも運用可能
- ・中心市街地に新たな空の駅のようなタッチポイントを作っていけるかどうか、今後の街づくりやエアモビリティの発展の土台になると認識
- ・空飛ぶクルマが飛行を想定する低空域では、すでに多数の事業者が飛行しているため、安全性の担保が大事
- ・3次元地形情報等を活用したパーティポート候補地分析が可能であり、他府県で検討を進めている事例もある
- ・既存交通との連携も含めた総合設計が必要

#### 【パーティポート運営事業者】

- ・吉野や平城宮跡などの上空からの景観は観光資源として有望
- ・観光拠点との連携や二次交通を踏まえた整備候補地の選定が重要

#### 【地元関連企業】

- ・初期のパーティポート整備においては、自治体からの支援が不可欠

### ○奈良県意見

- ・パーティポート整備には住民理解や地元自治体の協力、初期投資の課題があると認識
- ・県の政策と親和性が高いパーティポートの整備については、どのような支援、連携が可能か議論していきたい
- ・奈良市内では富裕層向け宿泊施設の整備も進んでおり、富裕層誘客という観点も含め、観光部局とも連携し、議論ができればと考える
- ・今後議論の熟度が高まる中で、パーティポートの設置場所や運用ルートなど、より具体的な検討を進めていきたい
- ・検討の際には、大阪府など近隣府県と連携した広域的な視点も必要と認識

## 【6. 閉会】

次回検討会議では、今回提示された論点を軸に議論を進め、検討を深めていく予定

以上

連絡先	奈良県 県土マネジメント部 リニア・地域交通課
電話	0742-27-8102（直通） （内線）63873
担当	豊住、北川